

通り慣れたこの道で

60代会社員／飲酒

私

は飲酒運転をして交通事故を起こしてしまいました。

その日はとても重要な仕事があり心身共に疲労した状態で帰宅しました。とりあえず夕食をとりながら、だらだらとビールを飲んでいました。これ以上は言い訳になってしまうので言えませんが、結果的には、「もう夜も遅いし車の通りも少ないだろう、交通量の少ない道なら大丈夫だろう、この位量を飲んでも運転に変化は無い」という勝手な思い込みで運転をしてしまったのです。

家を出て数百メートルの辺りにある小さな交差点を左折した瞬間、少しの違和感を感じたのですが「ボールに触ったかな」と思う程度だったのでそのまま進んで行くと、急に後ろから猛スピードの車が迫って来ました。私は恐怖を感じドライブレコーダーを注視してしまいました。走っていた道路が左カーブで、気づいた時には左ドアをアパートのフェンスに衝突してしまったのです。その瞬間、頭の中が真っ白で「どうしよう。飲酒運転で事故を起こしてしまった。取り返しのつかないことをしてしまった」と思いました。さらに追ってきた車は、私が交差点を左折する際に車のサイドミラーが接触したため追いかけて来た車だったのです。言われるまで全く気が付きませんでした。

(後から考えると、どれ程判断力が鈍っていたのか…とあきれるくらいです。)

しばらくしてパトカーが現場に来て…。それからは悪夢の様な時間が流れ、「人身事故じゃなくて良かったね。」との警察官の言葉に、本当にそ

のとおりで、後遺症が残る怪我や死亡事故になっていたらと考えると、背筋が凍る思いでした。

事故を起こして、初めて「飲酒運転」という事の重大さに気づきました。何故、こんな事が分からなかったのだろう。酔いとはこんなにも判断を間違わせる。そして、事故をしたことが無いという過信の恐さ。初めて身にしみて理解することが出来ました。

「自分で飲酒のコントロールが出来なければ、こんなことを繰り返したら人生をもうやり直せない」

と深く思いました。当然ですが家族にも大きなショックを与えてしまい、深く反省はしていましたが、家族関係はギクシャクしてしまい、私は精神的不安定となっていました。この生活を改善しなければいけないと、強く感じ禁酒外来に通院を始めました。

今回の講習において、カーブで速度を落としきれていないことや、交差点や見通しの悪いところでの徐行、ハンドルのポジション、乗車姿勢について指摘を受けて、気付かされた自分の悪い運転の仕方を改めて直していきます。

シミュレーション運転では、いかに飲酒による影響が大きく、コントロールが困難になるかを実感しました。

もう一度免許を取るにあたり、
「相手を思いやる精神とテクニック、
交通規則に乗っ取った運転をする」
ことを誓います。